

◎食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2021(4回シリーズ)

『with コロナの安全・安心につながるリスクミとは』

第1回テーマ:『ゲノム編集食品のリスクミのあり方』(オンライン)

【開催日】2021年4月25日(日)13:00~17:50(講演会)

オンライン懇親会 同日 18:00~19:30(ブレイクアウト・セッション)

【開催場所】オンライン会議(Zoom)

【主催】NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)

【後援(申請中)】消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科附属食の安全研究センター

【協賛(募集中)】

【対象】食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、
マスメディア、消費者団体・市民団体、など

【定員】先着 70 名(オンライン会議のため増員の可能性あり)

【講演会参加費】3,000 円/回(事前に銀行振込をお願いいたします)

* SFSS 会員、後援団体・協賛企業(口数により人数制限)、メディア(取材の場合)は無料

【参加申込み】<https://forms.gle/dimekqbButWF15S7> (申込期限:4月23日(金))

* SFSS 会員も各回の参加申込みが必須です(4回自動登録される訳ではありません)

【お問い合わせ】SFSS 事務局まで(info@nposfss.com)

【本フォーラムの主旨】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、講師 3 名(Q&A 含み 60 分)+総合討論(90 分):13:00~17:50 の構成とします。総合討論では、消費者市民の安全・安心につながる食のリスクコミュニケーションのあり方について、参加者の皆様からの質問に講師が回答する形で議論します。

【事故防止対策等】フォーラム開催に際して、事故防止及び公衆衛生の措置に留意し、十分に講じます。特に、今般の新型コロナウイルスに関しては、十分な感染症対策等を講じることとします。

【各講師のご紹介&講演要旨】

① 小島 正美(元毎日新聞編集委員)

『ゲノム編集トマトが世界初の国産ビジネスに育つ条件は何か』

日本発のゲノム編集トマトは、はたして世界初の市場流通という快挙を達成できるのか。そのハードルを越えるには、どんな条件をクリアすればよいのか、すでに流通している遺伝子組み換え作物の歴史的経過と比較しながら考えてみる。普及への最大の壁は、国民もしくは消費者の理解ではなく、反対派の運動がどれくらい強いのか、そして流通事業者のパイオニア精神(販売意欲)が発揮されるかどうかの2つの条件いかんだ。そして、メディアの動向がそうした阻害条件をどれだけプッシュするかも大きなカギを握る。

② 竹下 達夫(サナテックシード㈱代表取締役会長)

『ゲノム編集トマトをどう世に出すか』

1.ゲノム編集の種子であることを種子袋、トマト生産物に明記する。農家や消費者はどのように種子が作られたか、生産物がどのような種子で作られたかを知る権利があり、購買の選択の自由がある。それを尊重して、公明正大にステークホルダーに取引をしたい。

2.本格的な種子販売の前に消費者でもあり農家でもある、いわゆる、プロシューマーである家庭菜園の方々に苗、土壌改良材、肥料を約 5,000 人に無料配布する。そして、LINE を通じて、栽培指導、お互いの会話、ゲノム編集の知識、調理、トマトの保存の方法、動画での栽培体験の話に等、モニターしてゆく。こうした、市民による実際の栽培や食体験が SNS で発信されて社会受容につながるのが民主的な草の根メディアの一つではないかと考えている。

③ 山崎 毅(SFSS 理事長)

『ゲノム編集食品のスマート・リスクコミュニケーションとは』

インターネット調査において「ゲノム編集食品は安全かどうかよくわからないので、できれば食べたくない」と回答のあった 30 歳代/40 歳代の女性 100 名をランダムに抽出し、その安全性に疑念をいだいた不安要因に共感する設問を投げかけたうえで、学術的理解を与える科学的根拠をわかりやすく提供するスマート・リスクコミュニケーション手法の効果を検証した。その結果、「ゲノム編集食品も安心して食べられそうだ」との回答が 66 人から得られた。どのような設問+学術的説明が、より市民の安心につながったのかを考察/議論したい。

以上